

【財政再建プランについて】

先日来、市長は、財政状況説明会で市内各地をお歩きになり、市民の皆様到现在の財政状況、そして今後の財政再建プランをお話になりました。議会の方でもそれに先立ちご説明を頂きました。

前回の議会で質問させて頂いた通り、私は、その財政再建プランに、たいへん期待をしておりました。実施計画として、今後、境港の財政基盤の確保に向けて、具体的な取り組みが明確に示されると期待しておりました。

しかし、残念ながら、財政再建プラン（計画）というよりは財政再建方針としてか受け止められませんでした。特に「(何とかの)見直し」は、「見直し」という言葉で表現されている性かもしれませんが「計画」を立てる前の「検討」の段階で「計画」とは、ほど遠い印象しか受けませんでした。

今後、作られる行政改革大綱が具体的な計画になると思いますが、今までの行政改革大綱とこの度の財政再建プランの項目とを比較すると、多くのものが一致します。

今まで出来ていないので、それらが出てくるのは当たり前のことですが、平成14・15年に計画し、16年を超え、17年に入っている今、手が付けられていないことが、今後、出来るのかを不安視してしまいます。

ここで、あえて一点だけ質問させて頂きますが「職員給与制度の見直し」については、何時までを目標に、見直しを行いますでしょうか？

国の人事制度改革など様々な、加味しないといけないことがたくさんあります。人事評価制度のことも当然考えなければいけません。多くの関連する事柄があり、一足飛びに制度改革出来ることでは、ありません。

「見直し」つまりは、現状分析・問題の洗い出しをし、制度改革へ向けた基本理念や戦略をもち、「職員給与制度の改正」が計画になるならそれなりに時間は、必要であると思います。

ただ、「改定するかしないか」を「見直す・検討」するのであれば、今期中にでもその結論は、出せると思います。

今までのような「見直し」であれば、色々な言い訳で本当の意味での「見直し」「制度改革に向けた計画」でなく、「見直し」の「見直し・検討」で、いつまでたっても結論が出ません。実際、「職員給与制度の見直し」という言葉だけが何年にもわたって残っているのは、「見直し」の「見直し」で問題の先送りになっている様に感じます。また、その言葉がこうして残っているということは、改定する必要があるから残っているとも考えます。

様々な外部環境（国の制度であったり、地域住民の生活水準であったり）に流されて、それを言い訳にしているのは、いつまでたっても変革は、出来ません。ある時期、英断をもってそれを計画し、実施しないとイケないと思います。

「見直し」という意味も踏まえ、市長の決意あるご回答をよろしくお願い致します。

●回答（概要）

行政改革大綱の中で取り上げた職員給与制度の見直し項目は、多岐にわたって

おり、平成15年度から国や他の自治体に先駆けて改革を積み上げてきており、1・2年で改革がすべて出来るものではない。少しずつ進んでいる。

●要望（概要）

行財政改革大綱に進捗が市民に伝わるような進め方を行っていただきたい。

【各個質問を終えて・そして今後】

財政再建プランで具体的な実施計画・内容が示されてなく、プラン（計画）と呼ぶには、不十分であるという観点で質問をしたつもりであったが、質問の組み立て・内容・ポイント、そして「見直し」とい言葉の連発で聴いている方にも伝わらず、まったく論点を引き出すことなく終わってしまった。

「プランの数値目標」とか又は個別の項目の一つ一つの目標を引き出す様な質問構成にすべきであった様に反省する。